

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和3年3月31日

学) 清瀬学園 きよせ幼稚園

1. 本園の教育目標

強く＝健康でたくましい心と身体の子＝最後までやりぬく体力・気力＝忍耐力

正しく＝正しく話し、正しく行動できる子＝人と上手にコミュニケーションをとる＝社会性

美しく＝おもいやりのある美しい心の子＝気持ちをうまくコントロールする＝感情コントロール

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中で、第2期工事を工期通り、そして目的を達成できるように竣工させること、及びこのような時期だからこそ、子どもたちのために出来ることを積極的に行っていくポジティブな組織運営を行う。特に、ICTをより活用した取り組みを行う。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	令和元年度に引き続いた園舎・園庭改修工事による環境の変化がもたらす子どもたちへの効果	A	コロナの影響を受けながらも目標とした工事はすべて完了した。令和元年度工事は子どもたちがわくわく出来る環境整備工事が主であったが、令和2年度は防犯や管理体制の強化工事が主に行った。管理事務室からは、子どもたちの活動を見渡せる環境となると同時に正門一体型管理事務室となり、防犯面でも環境が向上した。毎日、子どもたちが管理事務室に訪れるようになったことから、現場の先生だけでなく、職員全体の子どもたちとの距離が近くなったと感じる。
2	ICT教材を用いた自己肯定感を高める活動の導入・実践	B	ICT教材「KITS」の導入を行い、本格的に開始をする予定ではあったが、コロナのため、全体のカリキュラムを見直さざるを得なかった。出来る限りの活用は試み、子どもたちも楽しそうに取り組んでいた。
3	デジタル化の推進による保育の情報発信による保護者との子どもの育ちの共有	B	保育動画、保育活動、音楽活動、卒園式等のライブ配信や、「KITS」を利用した保育活動や製作活動の配信等、コロナ渦であったこともあり、新たな取り組みをより積極的に行うことが出来た

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、改修工事は工期及び目的も達成することが出来たこと、園全体のデジタル化の推進による新たな取り組みが出来たことにより、一定の成果をもたらすこととなった。 今後は、この点については、新たな環境の更なる効果的な活用、更なるデジタル化による保育の見える化等、引き続き、新たな取り組みを行っていきたい。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	4年保育の開始	令和3年度より4年保育（2歳児毎日プレコース及び満3歳児入園）をスタートし、卒園までのゆとりを持ったカリキュラムの構成に取り組む
2	保育ドキュメンテーションの導入	活動やある出来事から子どもたちの成長や発達に担任自らが気づき、ポジティブに受け止め、今後の対応を考える記録（ドキュメンテーション）を導入し、保護者へ配信。情報を共有することにより、幼稚園の保育への理解を促す。
3	安全管理	これまでの安全管理を園内の管理職や識者を交え、もう一度見直し、緊急事態発生に備えて、危機管理マニュアル等を教職員間で共通理解し、意識の向上や改善を図る

6. 学校関係者評価委員会の評価

令和3年3月30日 評議委員会

新型コロナウイルス感染症拡大により危ぶまれた工事も、工期の変更や年間行事の調整だけでなく、天候に恵まれ、無事竣工することが出来た。工事の子どもたちへの効果は、広大なウッドデッキテラスで子どもたちがのびのびと遊び、給食を食べたり、管理事務室からの管理体制の環境等、十分に発揮している。

デジタル化についても加速した1年であった。保育動画の配信から始まり、ライブ配信や子どもたちの様子の配信等、これまでは不可能であったことが可能な環境となった。しかしながら、まだまだ活用の幅は残されている。今後、子どもたちのために、保護者との情報共有のために、どのように活用していくのかを課題としたい。

園内での新型コロナウイルスの感染者・クラスターの発生は無かったが、引き続き、気を引き締め対策を講じていくことを期待したい。